

「問いづくり」に取り組んでみよう

本ワークブックを参考にしながら、「問いづくり」にチャレンジしてみませんか。

P.36～37のワークシートに書き込みながら、考えていきましょう。

ワークシートは、コピーをして、校内研修などにぜひご活用ください。

Step 1 個人の取り組み

単元、または1時間の授業を想定して、「1.育てたい生徒像」「2.単元(本時)の授業の目標」「3.授業中での具体的な問い」を挙げましょう

「育てたい生徒像」は、先生方の「願い」です。どんな生徒になってほしいですか。そのために、この単元・授業でどのような考え方や力を身につけてほしいですか。それが「E」の問いの原型になります。問いの形にするのが難しい場合は、「E」の問いの欄には、「批判的思考力」「創造性を育む」といったキーワードだけでも挙げてみましょう。

考えるポイント

- 「E」の問いは、「育てたい生徒像」につながることを意識しましょう。
- P.10～33の各教科の「問いづくりの実践」を参考にしましょう。

■ 問いづくりの前提となる目標

1. 育てたい生徒像

担当教科の授業でどのような生徒を育てたいですか。

2. 単元(本時)の授業の目標

その単元の授業でどのような資質・能力を育むことを目指しますか。

3. 授業中での具体的な問い

上記1・2の達成に向けて、生徒にどのように問いかけますか。

【Extensions】 Wish: こういうことが考えられるようになってほしい

【Connections】 自分なりの気づきや発見を促す問い

【Ideas】 学びの中で扱われる基礎的な知識や技術

Step 2 個人の取り組み

「3.授業中での具体的な問い」を基に、5W1Hを使って、問いを具体化しましょう

P.6～8の「問いづくりのヒント」を参考に、授業で生徒に問いかける文言として、問いを具体化しましょう。まずは、5W1Hを使って、問いをとにかく連想してみてください。これまでの当たり前を疑い、分かったつもりを破ってみることで、これまでにない問いが思い浮かぶかもしれません。

そして、ある程度、問いを書き出したら、それが「I」「C」「E」のいずれのフェーズなのかを分類し、整理してみましょう。

具体化のポイント

- 動詞を手がかりに展開してみましょう。
- 条件(教具・教材等)を変えみると、気づきが生まれやすくなります。
- 学びを深めるための「転」の問いなのか、「洞察を促す」問いなのかを考えてみましょう。

■ 問いを具体化する5W1H

	問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容
1	本当か、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している
2	そう言える理由・ 判断の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論が論理的に関係づいている
3	仮定と反事実的推測 If, If not	仮定によって、条件や状況を設定し推量の質を高めている
4	～にもかかわらず Even though	異質な考えや矛盾等を取り入れることで、考察をより深めている
5	～なら、 ～が言えるだろう If then, If not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その幅を広げたりしている
6	関係性の理解・発見 What ⇔ Why ⇔ How	関係性を理解したり、発見したりすることで、見いだした意味や内容を言語化している
7	その他	

Step 3 先生同士の対話

記入したワークシートを持ち寄り、先生同士で「C」の問いの形を深めていきましょう

まずは、同じ教科の先生同士でワークシートを見せ合いながら、「C」の問いが目標の到達に向けた文言になっているかを検討してみましょう。対話では、参加者が何でも言い合えることが大切です。ひとまず、「できていないこと」は横に置き、これから生徒とともに「できるようになっていく」ところに着目しましょう。

そして、ぜひ、他教科の先生方とも対話をしてみてください。自分のこだわりや新たな気づき、よくわからないところが明確になっていくはず。それが、学習者主体の授業づくりの再検討・構想につながっていきます。

対話のポイント

- 「できなかったらどうしよう」と考えず、「できるようになっていく」ところに着目しましょう。
- 5W 1Hを使うと、発言を引き出しやすい質問ができます。
- 「どのように感じますか」と聞いてみましょう。「どのように思いますか」「どのように考えますか」よりも答えやすいはずです。

Step 4 個人の取り組み

先生方との対話を踏まえて、問いを見直しましょう

先生方との対話を踏まえて、自身の問いを見直してみましょう。その際、P.4～5の「問いづくりと、問いの構造化」をぜひ一読ください。問いづくりの目的や意義を再確認できるはずです。

見直しのポイント

- P.10～33の「問いづくりの実践」を読み、ワークショップの前と後で問いがどのように変化したのか分析してみましょう。

Step 5 実践

練り上げた問いを、実際に授業で生徒に投げかけてみましょう

練り上げた問いを、授業で生徒に投げかけてみましょう。生徒は、その問いに対してどのように反応したでしょうか。想定した答えだったのか、想定外の答えだったかなどの視点で振り返ることが大切です。

また、ほかの先生に授業を見てもらい、生徒にとって切実な問いになっているのかをワークシートに記入してもらくと、客観的な評価にもつながり、効果的です。

授業を見る際のポイント

- 授業は、「よくなっているところはどこか」といった視点で見ましょう。
- 「生徒の心の中の動き」や、生徒自身の「自己内対話」など、生徒がどのような状態になっているかという視点で見ると、ご自身の授業改善のヒントにもなります。

Step 6 振り返り+対話

「問いづくり」+「授業」を総合的に振り返ってみましょう

Step 1～5で実践してきたことを、改めて教員間で振り返る場をつくってみましょう。その際、各Stepでご自身がアウトプットしたものを材料に、ご自身の考えがどう変わり、問いがどう変容したのか、実際の授業で生徒の反応はどうだったのか、などを周囲の先生方と語り合うことで、新たな課題が見つかります。

振り返りのポイント

- P.37の振り返りシートを活用するなど、アウトプットしたものをもとにすると、対話がスムーズになります。
- 「同じ教科の別の単元や、他教科で使える問いはないか、という視点で見ると、個人や教科の枠を超えた学校全体の取り組みにつながりやすくなります。

問いづくり ワークシート

教科・科目

名前

1 育てたい生徒像 担当教科の授業でどのような生徒を育てたいですか

2 単元 (本時) の授業の目標 その単元 (授業) でどのような資質・能力を育むことを目指しますか

3 授業の中での具体的な問い 上記1・2の達成に生徒にどのような問いを投げかけますか

【Extensions】 Wish: こういことが考えられるようになってほしい

【Connections】 自分なりの気づきや発見を促す問い

【Ideas】 学びの中で扱われる基礎的な知識や技術

4 「C」の具体的な問い 「C」の問いを生徒にどんな言葉で問いかけますか

	問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容	具体的な問い	生徒の反応 への評価
1	本当か、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している		
2	そう言える理由・ 判断の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論が論理的に関係づいている		
3	仮定と反事実的推測 If, If not	仮定によって、条件や状況を設定し推量の質を高めている		
4	～にもかかわらず Even though	異質な考えや矛盾等を取り入れることで、考察をより深めている		
5	～なら、 ～が言えるだろう If then, If not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その幅を広げたりしている		
6	関係性の理解・発見 What ⇔ Why ⇔ How	関係性を理解したり、発見したりすることで、見いだした意味や内容を言語化している		
7	その他			

※「生徒の反応への評価」欄は、次の3段階で評価。A：効果的である B：どちらともいえない C：効果的でない

問いづくり研修 振り返りシート

教科・科目

名前

1 深めたい、解決したいと思っていたこと

【自身の強み・弱み】◎どんな問いを作るのが得意か。 ◎問いをつくるのに、どんな難しさ・苦勞を感じるか。

◎問いづくりに関して、指針や独自の技法をもっているか。

【研修で特に解決したいこと】◎研修を通して、どんな問題を解決したいか。また、自分はどんな貢献ができるか。

2 改善のポイント

【研修プロセスの中での気づき】◎「自身の強み・弱み」に変化はあったか。ある場合、どんなことか。

◎研修の中で、どんな内容が印象に残ったか、興味をもったか。 ◎知りたいことを見いだすことができたか。

◎どんなことを新しく学び、それをどのように問いづくりに生かせそうか。

【改善のポイント】◎研修の成果を授業のどんな場面で生かせそうか。 ◎問いづくりで、どんなゴールを設定（修正）するか。

◎どのようにしてそのゴールを達成するか。（プランや見通し）

【授業後の気づき】◎改善点を生かした授業を行った結果、生徒の反応はどうだったか。（生徒の心の中の動きなどに着目）

◎うまくいったと感じる点は何か。

3 新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと

【解決できていない課題】◎どんな疑問が残っているか。 ◎もっと深めたい（追求したい）ことはどんなことか。

◎もっと知りたいことはどんなことか。

【研修をよりよくするための提案】◎どのような期待をもって研修に参加したか。

◎研修に参加しやすかったか、あるいは参加しにくかったか。それはなぜか。

◎「教科別研修」「教科の枠を越えた研修」のどちらが効果的だと感じるか。それはなぜか。

◎研修の構成で、もっとこうしたらよいと思うことはどんなことか。

◎ワークシートは使いやすかったか。ワークシートに加えたらい項目はあるか。ある場合、どんな内容か。